

# 復興につなげる プランニング

つなぎ、つむぎ、つくりだす

コミュニティプランニングコーディネーター育成講座

事業案内



平成 25 年 2 月

特定非営利活動法人

コミュニティ・コーディネーターズ・タンク CoCoT



# 復興につなげるプランニング

つなぎ、つむぎ、つくりだす

コミュニティプランニングコーディネーター育成講座 事業案内

平成 25 年 2 月

## 目次

### はじめに

NPO 法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク CoCoT  
副代表理事 小山淳子

2

### 座談会

Part 1 講座生による座談会

4

Part 2 スタッフが振り返る育成講座

8

### 3.11 以降のコミュニティ再生

【特別掲載】内山 節氏インタビュー

12

### 事業全体の流れ

14



# はじめに

## コミュニティ再生につなげるコーディネーターの仕事

NPO 法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク CoCoT

副代表理事 小山 淳子

私が、NPOでコーディネーターを職業にしようと決心してから、ちょうど10年になる。この10年間、私は、自分自身がコーディネーターとして課題の中にあり続けることと、コーディネーターの仕事に誇りを持ち正当な評価を得られるように職業として確立させるという二つのことにこだわりながら働いてきた。私が、この二つにこだわることになったきっかけは、2004年に実施した内閣府の市民活動モデル調査だ。その調査で気付いた課題は、市民活動は刻々と変遷する社会に翻弄されながら展開される脆弱な存在であることと、その力づけのためには変わらぬバックボーンが必要であることだった。私は、市民活動の支援とは、地域課題の当事者が自ら課題解決の力をつけ、課題解決の取り組みが制度や仕組みとなって社会的に認知されるようになることで、それにはそれらを推進していく専門職が必要だと考えた。

3.11以降、新たな社会的な局面の中で、コーディネーターという職業は、様々な立場や価値観が錯綜する地域で、いろいろな地域資源を繋ぎ合わせて目標に向かって押し上げていく役割の人として期待されているが、その職能の定義づけが難しく、いまだに確立されていない。

今回のコーディネーター育成講座の中で、私たちが目指す「コミュニティプランニングコーディネーター(以下、CPコーディネーター)」はどのようなものであろうか？ CPコーディネーターの基本は、プロセスにある。極めて個人的な思いや悩みからその原因となる構成要素を引き出し、社会的な俯瞰した視点から考察しその背景と潜在している地域課題を洗い出す。さらに、共感者、地域ネットワークへと段階的なマッチングとコーディネートを経て、課題解決に向かう。市民が地域の課題を自らの手で解決していくためのプロセスを作り出す専門職である。発見された地域課題に対して、その課題解決に必要な要素を洗い出し組み立て、様々な情報や人などの地域資源を繋ぎ調整し、社会に一つのうねりを創っていくのだ。

本講座では、職能を専門的に身に着ける試みとして、全体の構成を基礎領域と専門領域に分け、CPコーディネーターが持つコミュニティにおける役割の基本的な考え方や姿勢、傾聴スキルなどの基本技能を学ぶことを基礎領域とし、専門領域では現場に立脚した企画立案などの応用技法の習得を目指した。

これらの講座を実施して明らかになったことは、

1. CPコーディネーターの専門職養成の教育カリキュラムを確立すべきである。
2. CPコーディネーターが専門性・スキルを維持・開発していくための恒常的実践的な教育体制の整備とそれを担う教育機関を整えることが必要である。
3. CPコーディネーターの職域を広げ、職場を開発し雇用を生み出すことが重要である。

そして、試行錯誤しながらこうした課題を乗り越え行くのが、CPコーディネーターとして最初の一步を踏み出した私たちの役割である。

## 実施日程

	日程	講習内容	講師	場所
オープニング公開講座	7月6日	【基調講演】 3.11以降のコミュニティ再生 【事例発表】 課題解決のためのコーディネート事例 【パネルディスカッション】 復興のランドデザインを描く	【講師】 内山節氏 【コーディネーター】 小山淳子氏	千葉県文化会館
第1回	7月25日	「コミュニティ再生のためのコーディネーターの役割」 ・NPOの基礎知識、NPOの歴史的背景と市民社会で果たす役割を学ぶ	安藤雄太氏	千葉市民会館
第2回	7月25日	相談技術をスキルアップする 基礎編 ・相談技術の基本を学ぶ。	小山淳子氏	千葉市民会館
第3回	8月7日	相談技術をスキルアップする 応用編 ・実際の事例を材料にグループワークとロールプレイで学ぶ。	小山淳子氏	千葉市ビジネス支援センター
第4回	8月7日	ファシリテーションスキルを磨く ・会合や講座などを進めていく基本技術を身に付ける。	庄嶋孝広氏	千葉市ビジネス支援センター
第5回	9月5日	ワークショップによる実現可能な企画立案の基本を学ぶ	山崎富一氏	千葉市民会館
第6回	10月19日	情報収集・ネットワーキング ・共感者・支援者を得、企画を実現していくためのプロセスづくりと必要な情報収集の方法について学ぶ。	小山淳子氏	千葉市民会館
第7回	10月19日	論理的思考による事業成果を引き出すためのプログラミング 内容のワークシートを使って、原因と課題と成果の整合性がとれる事業計画書の作成	矢代隆嗣氏	千葉市民会館
第8回	9月-11月	千葉県内での中間支援組織での実地研修	事務局	参加者の希望施設
第9回	9月	被災地での現地研修	事務局	福島県いわき市 小名浜地区
第10回	11月8日	・課題解決のためのコーディネートプラン 「プロモーションができるコミュニティプランニングコーディネーターを目指す」	森 良氏	千葉県教育会館
修了式	11月28日	コミュニティプランニングコーディネーター育成講座 修了式 & 成果報告会	事務局	千葉県教育会館
フォローアップ研修	12月12日	・活動報告 ・千葉県コーディネーターネットワーク体制づくりワークショップ	事務局	千葉県教育会館

## 実施体制



# 座談会 Part 1

## 地域に必要とされるコーディネーターへ

### 講座生による座談会



(平成24年10月19日の講座の様子)

#### 出席者

細川泰裕 (NPO法人コラボしるい代表理事)

馬場国隆 (まちづくり協力隊・双葉会総務 白井市  
市民活動推進センター運営協議会副会長)

小宮山理子 (NPO法人テラス21理事)

白尾克伸 (NPO法人ゆかいな仲間たち理事長)

司会者 小山淳子 (NPO法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク CoCoT 副代表理事)

平成23、24年の2回に分けて行ったコーディネーター育成講座が終了し、今回、1期生、2期生の皆さんに集まっていただき、講座内容の質に関する

感想や、またコーディネーターの役割について座談会を行いました。講座を体験した皆さんの意見を通して、コーディネーターとは何か、またコミュニティの中でどのようにコーディネーターが必要とされているかを、広くお伝えするきっかけになればと思います。



白尾 克伸さん

平成24年参加。市原市でNPO法人ゆかいな仲間たち理事長。県内を範囲とする防災活動をしている。千葉県災害対策コーディネーターの事務局活動にも取り組んでいる。

#### 講座の評価について

小山 講座で得たものとして、一番印象に残ったことは。

白尾 講座はどれも新鮮でした。一番の成果は、他





の講座生の皆さんと話ができたことです。先生との交流も何か困ったときはおたずねできるという安心感がありました。個人だけでは動きが見えなくなることもあるので、それぞれの地域で活躍している皆さんと講師を呼び勉強会をして、高め合っていきたいと思いますし、活動についてもお互い呼び合っ提供し合える関係ができるといいと思います。そのきっかけづくりをココットさんに期待しています。

**小山** 講座のうち実地研修については。

**小宮山** 私は、いわき市小名浜での1泊2日の研修で、ザ・ピープルさんという現地で活動する団体の取り組みを学んだことが一番の成果でした。ここは災害が起こってから立ちあげた組織ではなく、1990年から継続してファイバースイクルの活動をしており、たまたま災害が起こったときに役立ったということです。今までの活動があったからこそ、積み上げてきたものが状況に合致してうまく回転したい例だと思います。

**細川** 私は実地研修で被災地に行けなかったのが残念でしたが、流山と柏の市民活動センターの実習に行きました。そこで人脈もでき、その後も行き来して交流しています。

**馬場** 私は実地研修で県内のセンター3件ほどへ行ったのですが、とても新鮮味がありました。以前、市民大学で1年間まちづくりを勉強したことがありますが、市民大学に比べて深さが違い、時間を使って実践的なワークをじっくりやらせてもらったことがとてもいい経験になりました。理論はわかってい



仲間がしのための活動アピール



## 細川 泰裕さん

平成23年参加。白井市でNPO法人コラボしるい代表理事。福祉第三者評価福祉サービスの第三者評価機関を取得し活動。平成13年から地域の防災活動にも取り組んでいる。

ましたが、それを深く掘り下げてやらせてもらったことに尽きると思います。また特に、第10回の森良さんの講座の中身がとても深く、1日の講座ではなく3回ぐらいやってほしかったです。この講座にフォーカスをすべて置きたいくらい。あと、参加している皆さんが優秀でびっくりしたことも印象的でした。皆さん市民活動を実際にやっているプロのレベルの人が多く、非常にいい仲間を作っていただきました。今後ともこのネットワークを活用したいと思っています。

**小山** コーディネーションプランの作成を体験してどんなことを感じましたか。

**細川** 私のNPOではできれば事業型NPOを狙っていきたいので、講座では、実践的、利潤的なことをその場を通じて専門の先生から吸収する部分が多かったですね。

**白尾** 逆に私は、講座でNPOでのマーケティングや仕事で使うような手法をボランティアに持ち込むことに、そこまでやるの、とびっくりしました。生き残るためにNPOを組織して公共的な仕事を取っていく考え方もありますが、ボランティアなのだからもう少し気を楽に活動したいと考えているNPOもあると思います。どれも正解だと思いますが、私としては、NPOは行政代行ではなく、行政ができないことをするのだという考えを持っています。

**小宮山** 私は、予算をきちんと作ってどこかに提出するという流れを学べたことが、とてもいい訓練になりました。助成金の申請をしたことはありましたが、取れたらいいねくらいの気楽な提案の仕方だったので、きちんとアピールできる企画を作るノウハウを学ぶことができたと思います。毎回課題を与え

られ、企画書を作ることを毎回こなさなければならず、そういう訓練が日頃からできていなかったから一生懸命ついていった感じです。

**細川** 助成金は活動の上で大切な要

素ですね。私は講座を受ける前からNPOとして助成金を受けて、福祉車両ほかを設備しました。助成金を活用することで、地域助け合い活動の実践部隊としてさらに幅広い活動ができと思っています。

**馬場** 企業的手法を取ることにしても、民間ビジネスと同じように考え方を広げ、効率の面も考えることが必要だと強く感じました。今まで市民活動はどちらかというと地域の仲間との楽しさや趣味の範囲でしたが、今やそういう形では課題が大きくなってきて解決できなくなってきました。ただ企業の効率性を学ぶ点においては、講義でプランを立てる前にターゲットを明確にするということに、あまり重きを置いていなかったのが気になりました。ニーズを把握したらいきなりプランに行く方法では、その課題に起因するところにアプローチできません。目先の課題は解けても、派生した課題に対応できないと思います。講義ではもっとターゲットを重視してほしいと感じました。

**小山** 講師への要望はありますか。

**白尾** 私はどちらかと言えば、活躍している話よりも泥臭い話を、目線を下げて考えてくれる話が聞き



情報収集・ネットワーキングでの発表

入れやすかったような気がします。失敗談を聞かせてくれる講師がうれしかったですね。

**小宮山** どの講師も切り口が違っていたのが新鮮でした。オープニング公開講座の内山先生の話が本当に面白くて、引き込まれるように聞きました。コミュニティとは何かという根本的なお話で、目からウロコが落ちました。このままインプットで講座が進むかと思っていたら、その後はアウトプットが多く(笑)、予想外でしたが楽しかったです。

**馬場** オープニングの講義は私も印象的でした。特に内山さんの「今までは個人個人を優秀にしていけば、世界は良くなった、でも今は違う。基本単位はコミュニティであり、コミュニティを作らないと社会は良くならない」という言葉に、コミュニティが必要だという認識を得て、その後の講義を受けたくまりました。その他の先生も素晴らしく、これだけよく良い先生に集まっていたと感謝して勉強させていただきました。

**細川** 私も感謝しています。講師の先生方のお話は、私がそれまで得てきた学習知識を整理し直す良い機会でした。

**馬場** あえて挙げると5回以降の講座では、どこにターゲットを絞って学んでいるのか混乱しました。講座のねらいはここだと明確に言ってもらって、皆にパッとわかるように図表などを活用してもらいたい。たとえば第7回の講義のタイトルはとても難しく、私は勘違いしてアプローチして無駄な時間を使ってしまいました。また、全体の講座のタイトルも、目的がもうひとつ読めない部分があります。ボランティアコーディネーターの育成講座となってい



小宮山理子さん

平成24年参加。柏市でNPO法人テラス21理事。暮らし手の立場に立った町づくり家づくりを目指して、生活者の思いを叶えるための情報発信緊急調査を行っている。



ますが、中を見ると災害からの復興とコミュニティ再生とあり、この講座が災害から復興するコミュニティを作る勉強なのか、それを一つの機会としてありとあらゆるコミュニティを創造発展させていくための勉強なのか、最初つかみきれませんでした。最後の10回の講座を終えて、後者だとわかりました。

### コミュニティで必要とされる コーディネーターとは

**小山** 今回の講座生は皆さん活動する現場を持っていましたが、ご自分の組織や地域にコーディネートを持ちこむことはありますか。

**小宮山** テラス21では、事業のひとつに手賀の森という柏市のコミュニケーションづくりを、近鉄不動産から販売促進の一環として依頼を受け、5年間やりました。企業とタイアップしてコミュニティをつくるモデルになった事例として取り上げられました。私たちが関わり、企業の数字が出ることで、コーディネーションの成果が明快にわかりました。

**小山** まさにそうですね。また今後、コーディネーターが社会的に認知されるために、どのような役割を果たす存在であるべきだと思いますか

**白尾** 小名浜に行って綿の種をもらったとき、自分たちの活動とは、何かを直接解決しているのではなく、たぶんあのような種をまいてくる役割なんだなと。地域に種をまいて、それを一緒に育てていくような活動なんだろうなと感じました。種は今も机の中に入れてあります。



馬場 国隆さん

平成24年参加。白井市で市民大学の卒業生仲間とまちづくり協力隊・双葉会総務。また、白井市市民活動推進センター運営協議会副会長。

**細川** この時期になったら花が咲くというような感じですね。私は、コーディネーターは聞き役になることだと思っています。NPOで独居高齢者の日常支援をやっているのですが、たとえばご主人がなくなった人から家の片づけをしてほしいという依頼があり、行くと2時間くらいつかまって話を聞く。ああよかった、ありがとうと言われ、私たちはそれがうれしくてやっています。聞き上手になることが大切です。

**白尾** 聞くことは重要な点ですね。それに加えて、コーディネーターとして、周りから相談しやすい存在になることが大事だと思います。役割としては、行政代行ではなく、行政が越えられないこと、私たちだからできることがいっぱいありそうに思うのです。たとえば市境に防災拠点があつて、防災訓練がスムーズに行えないというときに、自分たちが両方の行政をつないで開催につなげたりすることができる。地域の問題で、もっとボランティアをいっぱい呼び込みたいとき、コーディネーターがいて入って話すことでおさまりがつくことがあると思う。そのためにも周りから支持されるようなコーディネーターにならなければいけないと思います。

**馬場** つまり市民のリーダーです。市民、地域住民が自分たちの町を自分たちでつくる自治の町をつくっていくとしようとするときに、市民にリーダーがまだいない。いろいろな課題や地域のまとめ役が必要となるので、これからはリーダー育成という点からもコーディネーターの教育をもっと強化して、いろいろなコーディネーターが町の中で育つようになってほしいと思います。

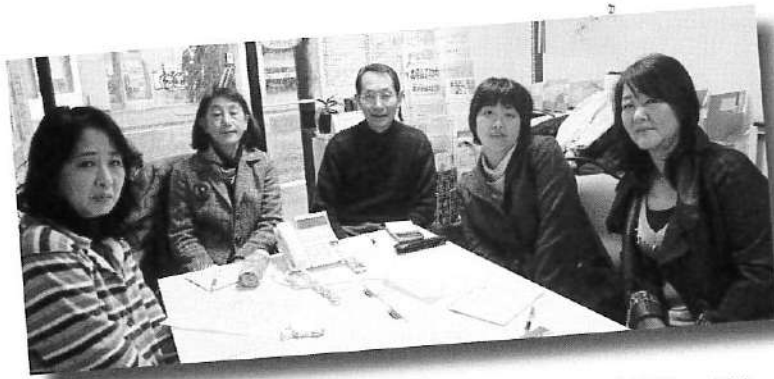
**小山** ありがとうございます。



# 座談会 Part 2

## まわりを主役にできるコーディネーターへ!

### スタッフが振り返る育成講座



(平成 25 年 1 月 14 日 CoCoT 事務所にて実施)

.....  
 ■コミュニティプランニング  
 コーディネーターの育成に、  
 千葉県内でも先駆的に取り組  
 んだココットでは、講座終了  
 してのスタッフそれぞれの立  
 場から、講座の成果や、今後  
 の課題について意見を交わし  
 ました。  
 .....

#### 講座の意義を振り返る

— 講座のレベルとターゲットの設定について

**小山** 企画する側として一番悩んだのはどれくらいまで水準を引き上げればいいのかということでした。コーディネーターはまだ職業として社会的に確立していないので、今の段階ではプロの育成ではなく、アマチュアの育成にならざるを得ないのですが、一口にコーディネーターといっても、専門職としての「プロのコーディネーター」と、コーディネーター機能を組織の中に持ちこむ「コミュニティワーカー」とで違いがあります。講座では、レベルとしてはアマチュアとしてのコーディネーター、つまり「コミュニティワーカー」を養成することができたと思います。また今年の参加者は特に、組織の中で活動している人が



講座パンフレット

多く、「コーディネーターとは何か」という課題を持った専門性の高い人たちが集まりました。

**高橋** 今回の参加者は、それぞれ現場を持つ人だったという強みがありましたね。

**小川** 昨年の参加者は、代表や事務局長という肩書きの人が多かったのですが、今年は職員や会員という人が多かったです。

**桑田** 行政と地域の間立つ中間支援をしている人が多かったようです。皆さんコーディネーターの仕事について模索し、課題を持っていました。講座では現場を持つ人同士がお互いに、今までになかったものを生み出していくことができたと思います。

**小川** 市民活動団体に所属し現場を持って活動している人には、とても効果があったと思います。逆にどちらかといえば専門職としての立場で来られた人は、苦戦していたかなと正直思っています。

**桑田** 同感です。現場を持ってコミュニティワーカーとして活動している人と、中間支援的な立場でスキルアップするために来ている人とでは、求めているものがまったく違い、難しいところがありました。中間支援的な組織にいる人にとっては、考え方の枠を越えるのに苦戦していましたね。逆に、現場



に出ている人にとっては、講座が結構驚きのあつたものだったようでした。

**高橋** 市民活動というのは、自分も動いてコーディネーションもできる人であり、コーディネートだけする人が出現すると、やはり実際の市民、地域は変わりません。

市民活動のコーディネーターは、自分で育ちたい、自分で伸びたいという主体性・自主性が必要になりますね。

#### ——講義と実地研修の効果について

**高橋** 一つの講座で人材を育成するところまで達するのは無理で、むしろ研修を受けたあと、どう育っていくかの動機付けや、育っていくために欠けていたスキルが少し充足されれば良いと思います。人材育成の目的には、その人がどういう気持でコーディネーターをとらえ、活動していくかという「マインドアップ」と、集団研修で関係力をアップさせる「スキルアップ」があります。今回は、いろいろな立場の参加者同士がワークショップを通して、関係力を鍛えることができたと思います。また講義だけでなく現場に出て学んだこともマインドがアップしたことでしょう。実地研修を経ると。終了に向けてのプレゼンの準備でさらにぐっと力が上がるようです。

**小山** そう思います。県外研修や実地研修を経て、何をねらいとする学習かを自分で消化した上でプレゼンテーションする、この段階を踏むことで、講座生の意識が大きく変化したことが、2年間の講座で検証されたと確信しています。そして学んだことをどのように職場・地域・活動に反映させるかが次な



第7回 事業計画書検討中

る大きな壁で、それには人前でわかるように伝えることで乗り越えることができると思います。

**高橋** 講座生からは、県外研修では、福島でコーディネーターをしている人たちに会い、被災地の状況に応じてどう動くべきか、知恵をたくさんもらったという声をもらいました。現地研修もただやるのではなく、そのなかにモデルとなるコーディネーターがいて、その人たちから学ぶという、はっきりした目的があったのがよかったのだと思います。

#### ——プログラムについて

**小山** 講座生からは、プログラムがとても考えられているということが自分にわかるまで、非常に時間がかかったという意見がありました。これは（講座を）もっとわかりやすく伝えられるようにしなくてはならないという、私たちへのアドバイスでもあります。プログラムの良さに気付いたのは矢代さんの講座と森さんの講座のときだったそうで、そのとき、学習の目的がどこにつながっているのかがわかったのだそうです。プログラムは、講座生にどこが到達点なのかを最初から示すほうがいいのか、体験で発見させるほうがいいのかは、実は私にもよくわかりません。今後、講座生の皆さんが体感したことを組み立てていく上で考えてくれればと思っています。





第10回コーディネートプランプレゼン中

**高橋** プログラムデザインを報告書に入れたら少しわかりやすくなるのではないのでしょうか。ただ講座の前にプログラムデザインを講座生に話しても頭には入らないのが普通で、終わってからこういう構造になっていた、と気付くものです。それでもプランする側は、プログラムデザインを作っていないとはいけないと思います。

**本堂** 講座のプログラムに関連して、モチベーションの上で提案です。今回は終了した人に千葉県知事の講座修了証書をお渡しすることになっていましたが、将来的にはコーディネーターとして社会的に認定される資格が与えられるような形になればいいかなと思います。

### 講座生はどう変容したか

——だんだんモチベーションが上がった人たち

**高橋** もともとスキルがあつてすでに中間支援のコーディネーター的なことをやっている人よりも、どうしてこの講座に参加したのかなと思えるような人が、後になって結構伸びたようです。たとえばAさんですが、社会福祉法人にお勤めの若い方で講義中はあまり発言もなく、企画もそれほど目立っていませんでした。それが県内研修では、サポートセンターにコーディネーターを配置していることに関心をもち、熱心に質問するようになっていきました。講座を通してコーディネーターについて考え始めるところまで行ってくれたらうれしいです。

**本堂** 全講座参加したのは、Aさん1人でしたね。

**小川** Aさんは、障害を持った人たちのマラソン大会を企画していて、ディスカッションで「給水所に地域の人に来てもらい、地域の人を巻き込んだら面白いのでは」と意見をもらってから何か気付いたようでした。コーディネーターならばただやるだけではなく、いろいろな人と関係をつなげることで事業がより充実するも

のになる、という気付きです。

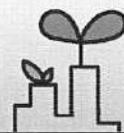
**小山** 私もAさんは印象に残っています。最初はマラソン大会をやることだけを考えていたけれど、いろいろな人にかかわってもらうことで、障害のある人たちを地域社会でどのように受け止めてもらえるか、きっかけを作れるのだと熱心に話していました。AさんとKさんを見て、組織にコーディネート機能を持ちこめる人だと思いました。

**小川** Kさんも印象深いですね。Tさんは千葉市で巻きずしを使って外国人と交流をしているのですが、企画作成ではそれを使わず、他の人の事例を参考に企画を立てたりしてピンと来ていない様子でした。ですが森さんの講座の後、あらためて巻きずしのプログラムに取り組み、アドバイスをもらって背中を押してもらっていました。

**本堂** 講座中、ご苦労のあった人もいましたね。



小名浜サロン視察



塩害にあった遊休地を活用したオーガニックコットン栽培の視察

**高橋** Tさんは病気、緊急入院をおして熱心に講座に出てくれて、その気持ちすごい!と思いました。それぞれの人にドラマがあり、無料の講座でありながら、皆さんモチベーションが高かったと思います。

**本堂** 私は事務局としてこの半年間連絡係でしたが、15名の皆さんが卒業したことはとても素晴らしいと思っています。

#### ——森良さんの講座での変化

**桑田** 森さんの講座で、森さんの「コーディネーターってなんだと思う?」という問いかけに、自分が中心になると思っていた多くの人が、「自ら場を作る」「結ぶ」「つなげる」と答えていました。森さんが「そうではなく、コーディネーターはつなげる役割を果たすだけで、自分が中心になるわけではないのだよ」と説明すると、皆さんハッとした感じでした。自分が力を入れて結びつけるのではなく、周りの人たちに主体的に動いてもらって大きくしてくんだ、ということに気付いた良い機会でした。

**小川** 同感です。森さんの講座で空気が変わりましたね。自分たちが今まで企画したり県内研修で現場を回ったりしたものをどう生かすのかと、もやもやしながら進んでいたのを、ここで「これが自分たちの組織に持ち帰るコーディネート機能かもしれない」と手応えをつかんだようでした。

**小山** 講座生が森さんに「コーディネーターとは何か、自分たちはそういうふうには考えてないし習ってなかった」と反論する場面を見たとき、講座生が自分自身どのような役割を担う人間なのかを消化

し、成長したのだと思いました。コーディネーターについての認識が180度ひっくり返る変節を経験できたよい機会でした。こうした変節の場面、自分が階段を上っていかなくてはいけないという場面を用意できたことで、講座生が講師に対して明確な意見が言えるところまで成長できたのだと思います。

**小川** 卒業発表のプレゼンテーションでは、まだ半分くらいの人が、自分が活動の主体になって動くプログラムになっていましたが、講師から「今度は人にどういう風に関わってもらって一緒にやればいいのか考えてください」とアドバイスをもらい、今後、その部分を進めていってくれると思います。

**小山** 2年間の講座を通して、スタッフの皆さんも、昨年に比べて力量がさらにアップし、講座の質を高める大きな力になりました。約半年間を通して、スタッフと講座生とが対等に意見交換できる関係になり、参加した全員が、今までの経験の中で力を発揮してくれたと思います。

#### ○ スタッフ・プロフィール

**小山淳子**  
NPO 法人 CoCoT 副代表理事  
本講座の企画立案し、事業総括を担った。

**小川まき**  
NPO 法人 CoCoT コーディネーター  
23・24年度 2年間にわたり、本講座の事務局として運営に携わる。実地研修の受入先の調整やプログラムの作りこみなど、本講座の実施マネジメントを担った。

**谷口起代**  
NPO 法人 CoCoT 復興支援担当コーディネーター  
いわきの視察現場の調整や被災地研修プログラムを企画した。講座生の企画の作りこみをサポートするテーブルファシリテーターを担った。(座談会当日は、いわき現地支援のため欠席)

**高橋由紀**  
NPO 法人 CoCoT コーディネーター  
傾聴スキルを駆使したテーブルファシリテーターとして、講座生をサポートした。講座企画の全体サポートを進めた。

**本堂和夫**  
NPO 法人 CoCoT 事務局  
本講座の運営と講座生を受講体制サポートを担った。情報開示や実施報告書の作成をサポートした。

**桑田雅子**  
NPO 法人 CoCoT コーディネーター  
本講座の事務局サポートに携わる。



## 3.11 以降のコミュニティ再生

コミュニティプランニングコーディネーター育成講座を終えて

### 【特別掲載】内山 節氏インタビュー

コーディネーターは、支援される側が自然に求めている「おのずから」を受け止め、「みずから」主体的に役割を引き受ける仕事です。この「おのずから」を知るには、支援される人たちが今どんな関係の中に暮らしているかを知ることです。オープニング公開講座「3.11 以降のコミュニティ再生」講師内山節氏に、地域再生に必要なコーディネーターの役割についてお話をいただきました。

聞き手 NPO法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンクCoCoT副代表理事 小山淳子

「おのずから」と「みずから」との関係とは、たとえば田植えを例に取りますと、おのずから田植えの季節があり、それがわかるからみずから田植えをする。子育ても、子どもがおのずからお腹がすいたら、お母さんがみずからミルクをあげる。そこを間違えて、みずからの計画通りに育てようとするとはよくありません。震災後の支援においても、たとえどんな善意であれ、被災者たちがどのようなプロセスでおのずからいるのかというのがわからずに、こちら側から仕掛けていく形で復興支援をしても、相手をますますくたびれさせてしまいます。被災者の「おのずから」を感じ取って、では今日はこれをしよう、次にはこれができるようにしようと考えていくのが、コーディネーターの役割です。

たとえば同じ80歳の人でも、東京の都心と、震災で家を失った人とではそれぞれ生きている関係の世界が違います。東京なら東京で、被災地は被災地で、今どういう関係の中に生きているかを読み取っていくことです。

たとえば脱原発の署名運動で、とにかく10万人の署名を集めるには、友達や知り合いなどそれぞれの人が持つ関係を「手段」として、目標とする署名人数を目指します。ですが、地域やコミュニティのような世界を作って生きていくためには、「関係作り」を目標にすること

が重要です。自分たちの生きている世界をもっと豊かにするためには、一つの目的だけではないさまざまな目的が入ってきます。動きとしては遅々として、集まってはお茶を飲んでいるだけの場合でも、それも含めて自分たちの生きている世界で生きていると言えるのです。みんな打ちとけてくれば、課題があったことに気付いたりする。一つの目的を追求するのではなく、いろいろな目的を追求しながら、自分たちの生きる世界を作る。これを“コミュニティ型”と呼んでいます。

——社会全体の底上げより、一人一人がどう生きるか

高度成長期の日本では、社会全体を底上げしていけばうまくいくというやり方で、社会自体のあり方は問うていなかった。経済さえうまくいけば、社会は自動的にうまくいくというのは予定調和説で、きちんとした社会理論はありません。しかし今は非正規雇用の増加など、経済を底上げするのも難しい社会であり、教育の低迷もわかりです。社会とは何か？どんな生き方ができるのか？ということを実面目に考えないといけない時代に入っています。答えは皆一緒である必要はありません。それぞれ生きる風土の中で、一人一人がどのような生き方をしたいのかを考えてこそ、そこでの社会のあり方が出てきます。どう生きたいかというのは自分なりの豊かさであり、おのずから着地点があるはずで

今、地方の土建屋さんの中に、公共事業で東京のゼネコンの下受けに依存しては将来がないと見え、面白いことにコーディネーターのような仕事をしている会社があります。たとえば郷里を離れて東京で暮らす人のために、お墓の管理をしてあげて、何年に1回くらいのお墓参りでもお墓がきれいになっているので喜ばれています。わずかな管理料ですが、地域の人とのちょっとした修繕の会話が生まれたりするのです。

こうした地域とつながりのできる経済は、自分たちで作るしかありません。遊休農地を必要な人に回して活用



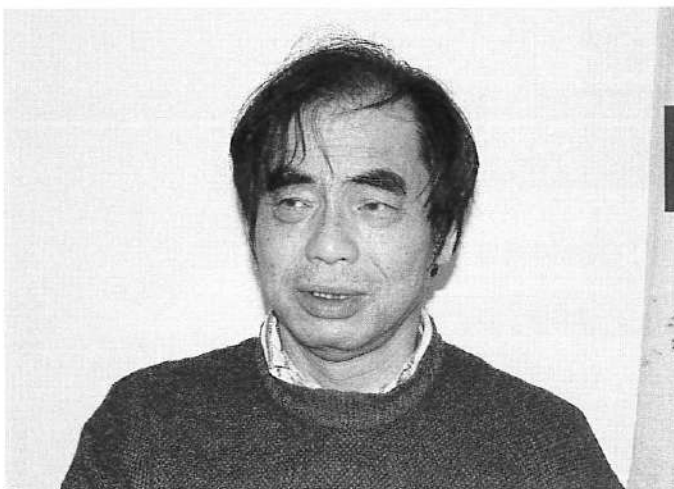
基調講演をする内山節さん（平成24年7月6日）

## 特別寄稿

## 内山 節 (うちやま・たかし) 氏

1950年東京都世田谷区生まれ。哲学者。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授。NPO法人「森づくりフォーラム」代表理事。1970年頃から、東京と群馬県の山村、上野村との二重生活をしている。

最新著書「内山節のローカリズム原論」(2012年農文協)



すれば、そこで働ける人が出てきます。若い人たちが生計を立てるほどの収入にはならなくても、それを見て高齢者がしばらく元気でいられます。こうした方法を積み上げながら、自分たちが共に生きる経済を考えていくことが重要な時代になっています。

## ——地域の経済はマクロ経済からミクロ経済へ

地域の経済を考えると、僕らはもっとミクロな経済を見ていくことが大切です。自分、次の人、そしてその次の人との3人で上手く回せるというような形です。そういうしくみができてくると、経済的な利益が多く回るわけではないけれど、地域の人が助かる。このようなミクロ経済をどう積み上げるかが課題です。三陸の地震でも、全体をマクロ経済で見ると、何万人の雇用をどうするかという話になりますが、そこには本当の復興はありません。本当の復興は、三陸の入り江の漁村で漁民が共に生きていけるしくみを作っていくことや、気仙沼のような大きい地域では、漁民や水産加工業者と一緒に生きていけるようにする働きかけです。高齢者も多いから介護のしくみも作っていけば、介護される人もする人も生きていける。このように一つずつは小さいパーツですが、積み上がれば地域社会は元気になれる。ぼくらが考えているのはそういう経済です。

## ——他地域から被災地へ援助に赴くとき

被災地支援では、緊急時は物資を届けるなどが重要ですが、その時期を過ぎ、これから経済的に復興しようというとき、コーディネーターは、自分の住んでいる地域と被災地側の地域との両方の資源について、よくわかっていなければいけません。双方の地域にあるいろいろな人的資源をはじめ、環境、自然などどのような資源があるかということを見きわめることが大切です。その上でどんな働きかけをし、どんなしくみで回せば被災地の人たちに役立つ資源になり得るかを考えていくのです。

地域外のコーディネーターが被災地で資源を見つけるには、難しさもありますが、離れていても、その地域の人とどのくらい密接に繋がっているかです。いぶふん変わってきます。自分の故郷のように頻繁に行っている人ならば、人間としての関係性ができてきて、いろんなことができるようになってきます。ただ1シーズン1回ぐらいの訪問だと、難しいかもしれません。

その地域に入ったら、内部の目で見えていくと、こういう関係が作れば資源になるというものが見えてきますし、逆に外部の目で見れば、これもつたいないじゃないとか、こういう関係をつくれればとてもいいという発想が生まれます。この両方がうまく動き始めるといいですね。

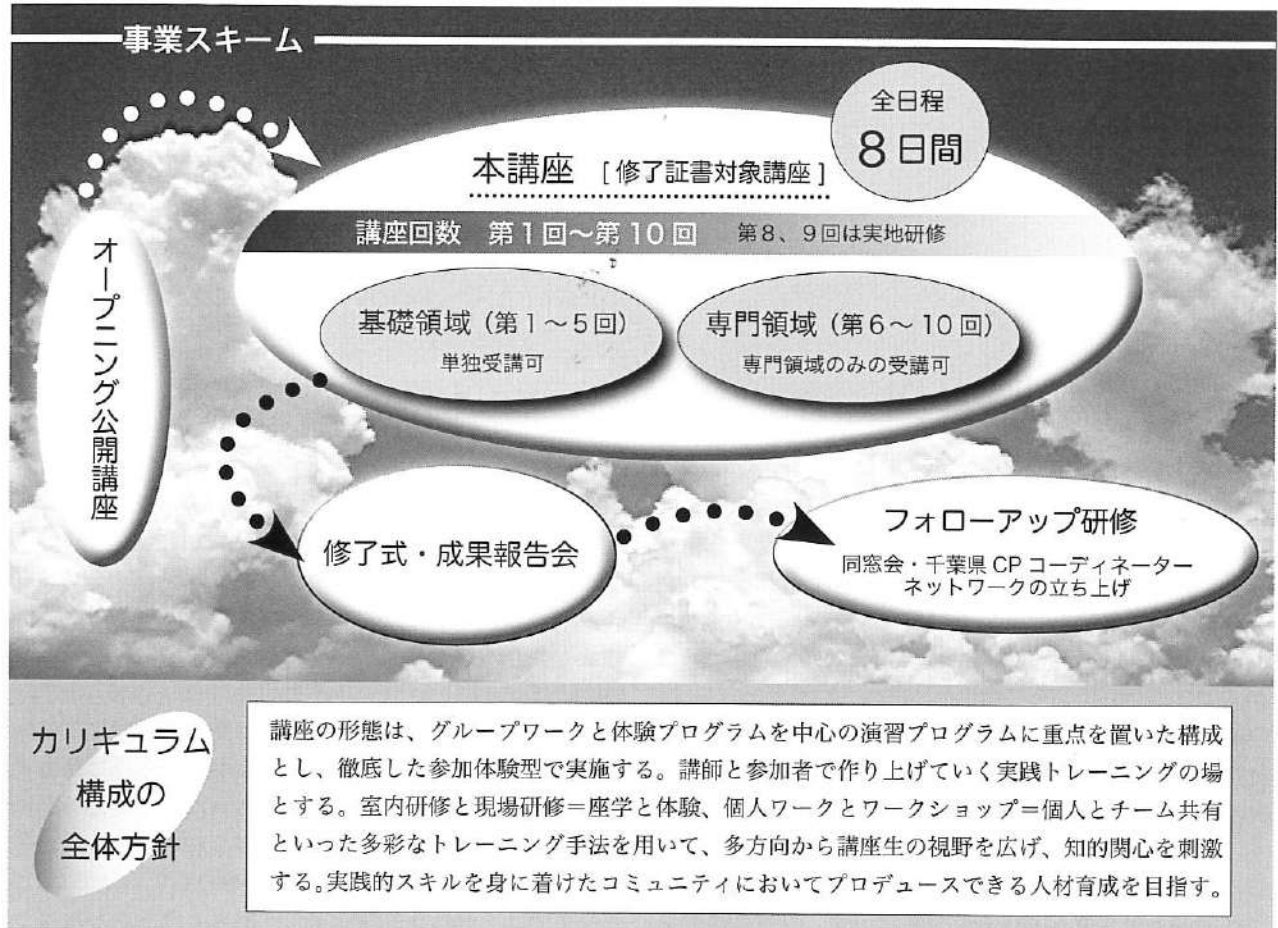
今までは、がれき処理など力仕事の人たちががんばって、仮設住宅でカフェを開いたり、音楽で元気づけたりしていましたが、生活が始まったら求められる支援も変わってきます。これは当然のことで、ある程度入れ替わりながら役割を増やしていくほうが意味があります。NPO組織も、はじめに問題提起してやってきた人たちが、状況に応じて後に入ってきた人のために補佐役に回っていけると、組織として持続性が生まれます。その地域の関係性を見きわめ、そこで人々が何を問題として生きているか、常に見ていくことが重要です。





# 事業全体の流れ

## 研修内容



## 導入部分

コミュニティプランニングコーディネーター育成講座オープニング公開講座  
復興のグランドデザインを描く  
～多様性を包括するコミュニティの再生を哲学者と行動する現場のコーディネーターが語る～

目的：コミュニティに関わるコーディネーターのあり様を包括的に捉えた講話や事例を学び、講座への参加意欲を高める。

内容：「3.11以降のコミュニティ再生」について、哲学者の講話から思想的なバックボーンと行動の指針を読み取る。現場のコーディネーターの活動事例から状況に対応するコーディネーターの役割を考える。NPOと行政や企業が、組織形態を超えて連携協働していくためのコーディネーターの基本姿勢を学ぶ。

## 基礎領域

### 共通認識の形成

### 第1回「コミュニティ再生のためのコーディネーターの役割」

目的：地域の特性に規定されやすい現場のコーディネーターにおける課題は、共通の認識のずれの大きさと、知識や経験の個人差である。コーディネーターの仕事に興味関心を引き出し、基本的な考え方と共通理解を得て、主体的に学んでいくための学習意欲を養う。

内容：NPOの基礎知識、NPOの歴史的背景と市民社会で果たす役割を学ぶ。実際の助成金申請書を使って、団体をサポートするコーディネーターの仕事の概要を知る。地域の市民活動の意義や効果を客観的に表現することにより、コーディネーターの職業的立ち位置を知る。



# 研修内容・カリキュラム構成

## コミュニケーション基礎スキルの修得

目的：基本技法の確実な習得を目指し、汎用性のある現場で通用するレベルの知識と技術を目指す。特に、個々の感性や活動のキャリアを活かしつつ、経験の中で習得した自己流を修正できる環境を提供する。

第2回「相談技術をスキルアップする 基礎編」  
第3回「相談技術をスキルアップする 応用編」  
第4回「ファシリテーションスキルを磨く」

内容：傾聴力と発問力を学び、実際の事例を材料にグループワークとロールプレイで習熟する。コミュニケーションやファシリテーションの基本を知る。会合や講座などを進めていく基本技術を身につける。ワークショップのミニプログラムを組み立てて、参加シミュレーションにより体験型で学ぶ。

## 作業基本スキルの修得

目的：コーディネート技術の作業レベルでの基本スキルの修得を目指す。思いを受け止めたうえで、企画にするために、アイデアを整理し企画ラフ案が描けるスキルを習得する。

第5回「ワークショップによる実現可能な企画立案の基本を学ぶ」

内容：個人の問題意識から掘り起こされた地域課題解決のアイデアを企画ラフ案に落とす。  
事業費や人件費、管理費などを試算した予算書の作成し、資金調達計画を立てることで、企画の概要を捉えることを学ぶ。

## 専門領域

### 業務遂行スキルの修得

目的：活動団体をサポートするコーディネーターの仕事を具体的に学ぶ。地域での市民活動の意義や効果を広い視点で捉え、論理的な思考で説得力のある企画にできる力をつける。

第6回「情報収集・ネットワーキング」  
第7回「論理的思考による事業成果を引き出すためのプログラミング」

内容：共感者・支援者を得、企画を実現していくためのプロセスづくりと必要な情報収集の方法について学ぶ。活動を多様な切り口から検討する訓練をする。それらで得たものをワークシートを使って、原因と課題と成果の整合性がとれる事業計画書に作成する。

### NPO 支援現場の現状把握

目的：千葉県内及び被災地の現場の視察や活動体験により現状を知る。コーディネーターとしてのキャリアイメージを創る。千葉県内に人的ネットワークを作る。

第8回「千葉県内での中間支援組織での実地研修」  
第9回「被災地での現地研修」

内容：千葉県内のNPO支援センター等で実際の業務を体験して、日常業務の内容、イベントの運営方法など、実践的な知識や人脈を職場や活動フィールドに活かす。被災地の現場視察により緊急時のNPOや支援者の役割を体験的に学ぶ。

### 活動を支えるリーダーのスキル研修

目的：講座生の住む地域の特性を押さえ、地域課題に対して周辺の注意を喚起し、それへの取り組みの共感者や支援者の層を増やしていくことのできるコーディネーションプランを作成する。

第10回「課題解決のためのコーディネートプラン」  
「プロモーションができるコミュニティプランニングコーディネーターを目指す」

内容：自分の地域の課題を題材に、今まで学習してきたことをベースに、多様な地域資源を活用しながら、さらに具体的なコーディネートプランとして作成することを学ぶ。コーディネーターとして地域社会との関わり方や事業方針がある程度イメージできた段階で、実践して成果に繋げていくために、プロセスを描く。

## フォローアップとネットワークの形成

修了式「コミュニティプランニングコーディネーター育成講座修了式&成果報告会」  
フォローアップ研修「活動報告・千葉県コーディネーターネットワーク体制づくりワークショップ」

目的：修了後も活かせるネットワーク作りと自己研さんの機会を用意する。

平成 24 年度千葉県県民活動促進事業 ボランティアコーディネーター育成事業

## 復興につなげるプランニング

つなぎ、つむぎ、つくりだす

コミュニティプランニングコーディネーター育成講座 事業案内

平成 25 年 2 月発行

発行・編集

NPO 法人コミュニティ・コーディネーターズ・タンク CoCoT

発行責任者

川瀬裕思

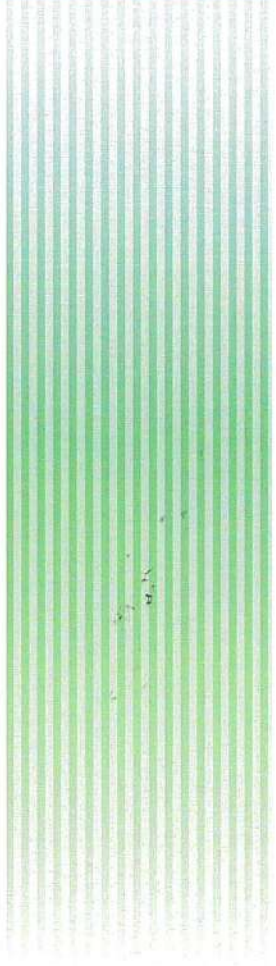
連絡先

〒 271-0092 千葉県松戸市松戸 2050  
TEL : 047-366-8909 FAX : 047-369-7445  
E-mail : [contact@npo-cocot.com](mailto:contact@npo-cocot.com)  
URL : <http://npo-cocot.com/>

編集・印刷

東京創作出版





平成 24 年度千葉県県民活動促進事業  
ボランティアコーディネーター育成事業

コミュニティプランニングコーディネーター育成講座  
事業案内



平成 25 年 2 月

特定非営利活動法人  
コミュニティ・コーディネーターズ・タンク CoCoT